

## こうしたら日高門別まで 運行再開できる

～日高線復旧後に描く夢～

2017. 11. 24(金)  
安全問題研究会

## JR日高本線

- 苫小牧～様似、146.5km
- 2015年1月、高波により不通に～まもなく3年
- 「列車通学ができると思って静内高校を選んだのに、1回も列車に乗れないまま卒業になりそう」(静内高生徒の親)

## 最もひどい被災 区間

- 大狩部駅付近
- 2017.3.20撮影



## 苫小牧～日高門 別は被災せず

- 日高門別駅  
(2017.1.8撮影)
- 苫小牧～鶴川は  
列車運行、鶴川  
～日高門別は被災  
していないのに  
運休続く(JR  
北海道の怠慢)



## 鶴川～日高門別の運行再開にいくら必要？

- ① 0円
- ② 6,000万円
- ③ 1億円

## 鶴川～日高門別の運行再開にいくら必要？

- 正解は……
- ①0円 (列車1本のみでの運行で良い場合)
- ②6,000万円 (列車2本以上を運行する場合)
- ③(1億円)は被災箇所の復旧を含んだ費用 (JR自社負担分として日高町に提示)
- ただし、いずれも運行再開後の赤字は含まず

### 0円で運行再開する方法

- スタッフ閉塞式 (通票式) で運行
- スタッフ (通票) を1つ用意し駅員が運転士に手渡す
- 鶴川～日高門別ではスタッフを携行した列車のみ進入可とする (写真は広島県・可部線)



### 具体的な運行方法 (スタッフ閉塞)

- 交換駅 (すれ違い可能駅) から次の交換駅まで (鶴川～日高門別) を1区間とし、運転士にスタッフを携行させ運行
- メリット→信号設備が不要 (人による確認運行)
- テメリット→列車1本しか走れない
- 折り返し時間が長くなるほど列車運行本数が減るため、長距離区間には不向きだが、鶴川～日高門別 (20.8km) 程度であれば十分、検討に値する
- 1時間に1本程度の運転が可能

## 具体的な運行方法(スタッフ閉塞)

- 信号設備が不要である代わりに、スタッフ受け渡しのための要員が鷓川駅で最低1名必要
- 現在、列車が運行していないのに静内駅に駅員が3人もいる。このうち1人を鷓川に回せば人件費も現行のまま対応可能
- 苦小牧～日高門別の全区間をスタッフ閉塞としても良い(この場合、鷓川に要員は不要)
- 結果的に、追加費用無しで運行再開できる！

## 具体的な運行方法(スタッフ閉塞)



## スタッフ閉塞式は鉄道ファンに人気

- 国鉄時代は「通票式」と呼ばれた
- 現在は非自動閉塞(信号)方式の一種
- タブレット閉塞式(国鉄時代は「通票閉塞式」と呼ばれた)とは似ているが別(通票閉塞式では2本以上の列車を運転可)。
- 旧国鉄「運転保安設備基準規程」改正により、国鉄が全線で自動信号化を達成するまでの間における「過渡期の閉塞方式」と位置づけ→いずれ消える運命に
- しかし、信号が不要で安上がりのため、短距離で列車本数の極端に少ない末端区間(貨物引込線など)ではしぶとく残る。JRでは札沼線、名松線、越美北線末端部に残るのみ
- 鷓川～日高門別間で採用すれば、**それだけを見にわざわざ全国からファンが集まる可能性も**

## 鷓川～日高門別 運行再開後は

- 日高町役場、門別中、門別国保病院まで列車で行ける
- 地域の人も通学、通院で使えるようにする
- イベント列車を走らせ増収につなげる(写真は留萌線のバーベキュー列車)



## 静内、様似まで復旧したときは

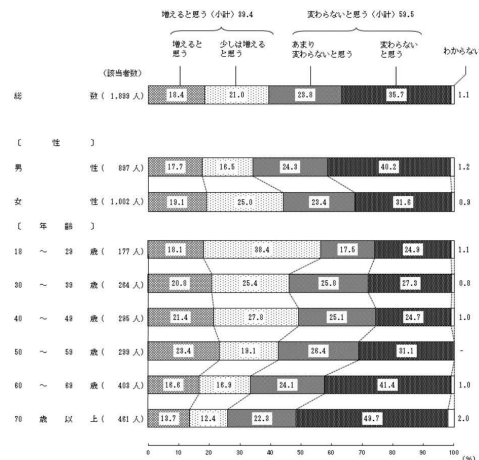
- 鶴川～日高門別をスタフ閉塞としたままでは対応できない。鶴川～静内（様似）を別の閉塞方式に変える
- 現状の特殊自動閉塞方式に戻しても良いが、この方式は**交換駅（すれ違い可能駅）に停車せず、通過する列車を設定できないため優等列車の運転に向かない。優等列車を走らせるなら自動閉塞化が必要。**
- 交換駅が鶴川、日高門別、静内、本桐の4駅しかない。列車を増発するなら交換駅を増やす必要

## いつでも乗れる鉄道にすれば乗客は増える

- 内閣府「公共交通に関する世論調査」（2017年2月公表）
- 鉄道やバスがもっと利用しやすければ、出かける回数が「増える」「少しは増える」の合計……39.4%
- 男性34.2%、女性44.1%が（少しは）増えると回答
- 「公共交通機関にはまだ高い潜在力がある」（国土交通省）
- 外に出たい人が出られない……消費の減少、生活習慣病増加など「見えない社会的コスト」が増える

## 「高齢者 = 交通弱者」は本当か？

- 「増える」「少しは増える」の合計は……
- 18～29歳 56.4%
- 30～39歳 46.2%
- 40～49歳 49.2%
- 70歳以上 26.1%
- 「交通弱者 = 子ども」との結果(49歳以下は小さな子どもを持つ世代)

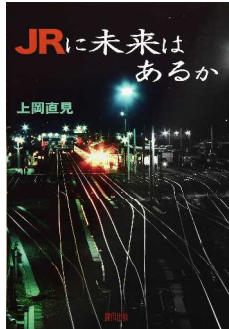


## なぜ公共交通は整備されないのか

- 高齢者（病気の人除く） = 交通強者が社会で支配権 → 「子ども第一」への転換（少子化対策にもつながる）
- 鉄道もバスも民間企業による営利事業 = 「儲からなければ廃止当然」の意識が浸透。 → 民から公への転換
- 「自分が使わないのに存続を訴えていいのか」という地元意識 → 「自分が日頃使わないから病院や警察、消防署は不要か」と考えてみる

## 民営事業としての鉄道の行き詰まり

- お勧め本「JRに未来はあるか」（上岡直見・著、緑風出版、2017年）
- 民営化で鉄道が採算性原理に直接晒されるようになり、設備投資が減少→大都市では大混雑、地方では路線廃止が起きている。
- 大都市の「痛勤」とローカル線廃止は根が同じ問題、との重要な指摘
- 「真に国民本位の交通政策を指向するのであればあらゆる選択肢」→JR再国有化を提案。必読の書



## 廃止危機のローカル線、もうひとつの夢

貨物輸送で鉄道復権を！

## 廃止危機のローカル線、もうひとつの夢

- ネット通販拡大で、2016年はヤマト運輸だけで貨物取扱量が7.8%増、値上げでも荷物量は減らず
- トラック運転手の有効求人倍率は2.7倍！（2016年12月。2.7件の募集に1人しか応募がない）
- 人手不足、過重労働、事故、遅配の「物流危機」
- 乗客が減る一方でも荷物は増える一方。人が乗らなくても貨物がある

## 高まる鉄道輸送への期待

- 「この1~2年で明らかに潮目が変わり、貨物鉄道への評価や期待が数十年ぶりに高まっている」「メーカー・流通などの荷主企業トップから『困っている』という声を聞くことが非常に増えた」（石田忠正・JR貨物会長）
- 鉄道貨物は大型トラック65台分を1人の運転士で輸送可能（大量輸送性）、CO2排出量がトラックの9分の1、船舶の約半分（環境に優しい）
- JR貨物の貨物列車は全国で1日に地球5周分の距離を走行し、定時発着率が約95%（高い定時性、安全・安定性）

## 公共交通を使った宅配便輸送、拡大

- 京福電鉄嵐山線におけるヤマト運輸宅急便専用電車(荷物のみ、人は乗せない)



## 路線バスに混載の例も

- 客貨混載の例。車内に荷物用スペースを設けている(宮崎交通バス)



## 北海道でも

- ふるさと銀河線転換バスによる宅配便輸送の例(十勝バス)



## 東北地方でも

- 岩手県北バス(岩手県)の「ヒトものバス」による客貨混載輸送



### 東京メトロでも

- 東京メトロ(旧・営団地下鉄)新木場車両基地
- 交通渋滞緩和、CO2削減、ドライバー不足解消など、公共交通として具体的な解決策を考えた」(東京メトロ)



### (追加)長良川鉄道(岐阜県)でも

- 旧国鉄越美南線転換の第三セクター鉄道
- 長良川鉄道は人口減による収入減を荷物運送で補う。ヤマト運輸は運転手不足を鉄道輸送でカバー
- 2017年11月から1ヶ月間、関～美並刈安間で乗客の少ない午後に実証実験。2018年4月に本格導入へ



### (追加)旧国鉄時代の客貨混載専用車両

- 国鉄時代の合造車(キハニ15系)
- 乗客の少ない地方路線では1両を半分ずつに区切って客貨混載
- 最近の旅客車への宅配荷物混載は国鉄時代の輸送形態の「復活」



### 北海道における旅客特急列車と、貨物列車のうち特急に相当する「高速貨物」列車の本数の比較(いずれも定期列車のみ)。

区間・列車名	旅客特急列車	高速貨物列車
青森～函館(新幹線)	下り15本、上り16本	下り26本、上り25本
函館～札幌(北斗)	下り14本、上り14本	下り26本、上り25本
札幌～帯広(Sおおぞら・Sとかち)	下り11本、上り11本	下り7本、上り6本

- 青森～函館～札幌間は、貨物列車が旅客特急列車の約2倍!
- 津軽海峡を越えて輸送される貨物は1日当たり25,500トン
- 青函トンネルでは、新幹線が貨物列車のために減速運転

## 深刻化する物流問題 もし北海道から鉄道が消えたら①

- トラック(10トン車)で置き換えた場合、青函区間では1日当たり**車両延べ2,550両、運転手延べ2,550人が新たに必要**(それだけの数の運転手も車両もどこにあるのか?)
- 2015年には全国で**トラック運転手が需要に対し、14.1万人も不足する**(「連合」の2006年予測、国交省も参考に)
- 観光バスもトラックも運転手不足、車両不足**(宅配便が配達できない、バス車両発注から納入まで最大1年待ち)**。

## 深刻化する物流問題 もし北海道から鉄道 が消えたら②

- 「荷物があるのに運んでくれる人がいない」「誰も運んでくれないまま、北見で穫れたタマネギが腐っていく」(右写真=北見駅で発車を待つタマネギ列車)
- 2016年、北海道に4つの台風上陸→首都圏でタマネギなど野菜が高騰、「ポテチショック」発生
- これは私たちの望む未来なのか？ 首都圏の「食」を支えているのは誰か？



## 国鉄分割民営化が破壊した「助け合い」

	国鉄の営業係数	食料自給率
北海道	100円/3,859円 (美幸線、1974年度)	200% (2012年度カロリーベース)
東京都	100円/ 48円 (山手線、1980年度)	1% (同上)

・(出典:食料自給率は農林水産省「都道府県別食料自給率」)

国鉄時代は、東京が北海道の鉄道を支え、北海道が東京の「食」を支えていた。国鉄分割民営化で東京は地方を支えなくなり、地方に対する「収奪」だけが残った

## 路線網としての 鉄道の価値

- JR北海道は、根室本線(富良野～新得)までバス転換を提案
- 石勝線全通(1981年)まで貨物列車は富良野～新得間を経由。ここを廃止後、石勝線が不通になったら？





## 災害時、実際に迂回輸送の例も

- 東日本大震災(2011.3)で、根岸製油所(横浜市)から福島以北の東北地方への輸送ルートがすべて断絶
- 上越線経由で新潟に出て、磐越西線で郡山へ向け石油の迂回輸送が行われた



## 災害列島日本には迂回ルートが必要

- 磐越西線も被災したが、唯一の迂回ルートとして機能
- ここがなければさらに多くの犠牲者も
- 貨物のことを考えれば重要区間の廃線提案はできないはず。客貨を別会社に分割した弊害
- 大局観欠くJR北海道に公共交通事業者の資格なし



## 北海道の宝物 = 鉄道を今だからこそ残そう！

- JRの枠組みは今のままで良いか？ 客貨混載を拡大するためには貨物が別会社のJRではダメ。国鉄時代のように客貨一体に戻す必要がある
- JR発足時と異なり今は新幹線が函館～鹿児島をカバー。客貨一体に戻せば新幹線で貨物輸送ができる。「函館のイカをその日の夕方に鹿児島の料亭で食べる」も可能
- 乗客が減る一方のローカル線に明るい話題は少ないが、貨物輸送には明るい未来がある。貨物のために線路を残せば、人も利用できる。これからの鉄道は「貨物が主、乗客は従」くらいの発想が良い

ご清聴ありがとうございました。

安全問題研究会ホームページ  
<http://www.geocities.jp/aichi200410/>